

ソフトバンクグループの成長戦略における知的財産部門の貢献実績

はじめに

ソフトバンクグループは、国内外の通信事業を中核に、情報サービス、インターネット、金融、エネルギーなど多岐にわたる事業を展開する巨大企業グループです。近年では、AI、IoT、ロボットといった分野への投資を積極的に行い、常に時代の先端を走る企業として注目を集めています。¹ 知的財産と事業戦略の関連性を理解することは、企業の成長にとって非常に重要です。² ソフトバンクグループも、知的財産部門の貢献により、事業の成長と発展を遂げてきました。本稿では、ソフトバンクグループの知的財産部門の役割と活動内容を概観し、同社の成長戦略における貢献実績について考察していきます。

知的財産部門の役割と活動内容

ソフトバンクグループの知的財産部門は、同社の事業活動全体における知的財産の保護と活用を推進する役割を担っています。知的財産部門は、いくつかの重要な活動に従事しており、特許権、意匠権、商標権、著作権などの権利取得・維持・管理を行い、模倣品対策や不正競争防止などを通じて、グループ全体の知的財産を守っています。³ また、取得した知的財産権を、ライセンス契約や共同研究開発などを通じて収益化するとともに、新規事業の創出や競争力強化に役立っています。さらに、社内研修やセミナーなどを開催し、従業員の知的財産に関する意識向上を図るとともに、知的財産を尊重する企業文化の醸成に努めています。

近年、事業活動の広がりを受けて、知財部門の活動は従来以上に拡大しています。⁴ 従来は競合他社を考慮して戦略を検討していましたが、現在では異業種も含めた考慮が必要になっています。また、ビジネスに直結する戦略構想の重要性も高まっているため、ビジネススクールや様々なOJTを通じて、知財部員の能力を高めているとのことです。⁴ さらに、新事業の知財を押さえるために、契約等を中心として営業部門の知財の能力をあげていく取り組みも進めているようです。⁴

ソフトバンクグループでは、知的財産部門が事業部門と連携し、それぞれの事業戦略に合わせた知的財産戦略を策定・実行することで、グループ全体の成長に貢献しています。⁵

成長戦略における貢献実績

ソフトバンクグループの成長戦略において、知的財産部門は以下の様な貢献実績を挙げています。

1. 研究開発の促進と技術革新

ソフトバンクグループは、積極的に研究開発投資を行い、AI、IoT、ロボットといった最先端技術の開発に注力しています。知的財産部門は、これらの研究開発成果を特許出願することで、技術の独占的な利用を可能にし、競争優位性を確保しています。

例えば、ソフトバンクは成層圏通信プラットフォーム「HAPS」の開発において、独自の特許を取得することで、HAPS 業界最大級となる約 600 件（特許出願中を含む、2023 年 3 月現在）の特許群を構築しています。³

特許出願状況・取得状況

2024 年のソフトバンクグループの特許登録状況は、IP Force のデータによると以下の通りです。⁶

- 公開済み特許出願: 92 件⁷
- 特許登録: 88 件⁸

2. 新規事業の創出

ソフトバンクグループは、既存事業の枠にとらわれず、常に新しい事業領域への進出を模索しています。知的財産部門は、新規事業のアイデア創出や事業化 **feasibility** の検討段階から関与し、知的財産の観点からアドバイスを行うことで、新規事業の成功を支援しています。

3. M&A 戦略の推進

ソフトバンクグループは、M&A を積極的に活用することで、事業の拡大や新規事業への進出を加速させています。知的財産部門は、M&A の対象となる企業の知的財産デューデリジェンスを行い、買収後の知的財産戦略を策定することで、M&A の成功に貢献しています。M&A は、ソフトバンクグループの成長戦略において重要な役割を果たしており、知的財産部門による適切なデューデリジェンスと戦略策定が、その成功を大きく左右すると言えるでしょう。

4. ブランド価値の向上

ソフトバンクグループは、「SoftBank」ブランドをはじめ、多くの有力なブランドを保有しています。知的財産部門は、商標権の取得・管理を通じて、これらのブランドを保護するとともに、ブランド価値向上のための戦略策定を支援しています。

5. 知的財産を活用した収益化

ソフトバンクグループは、保有する特許権などをライセンス供与することで、収益化を図っています。また、知的財産を担保とした資金調達など、知的財産を有効活用することで、グループ全体の財務基盤強化にも貢献しています。

知的財産権の活用促進

ソフトバンクグループでは、「実施報奨金制度」を設け、特許権の事業部門への周知を図っています。⁵ この制度は、特許権を活用した新製品や新サービスを開発した事業部門に対して報奨金を支給することで、特許権の活用を促進し、事業の活性化を図ることを目的としています。

また、2022年には社内表彰制度「SoftBank Award 特許賞」を新設し、優れた発明を表彰しています。⁵ この賞は、従業員の発明意欲を高め、より革新的な技術やサービスの創出を促進することを目的としています。

知的財産戦略の今後の展望

ソフトバンクグループは、今後も AI、IoT、ロボットといった分野への投資を継続し、さらなる成長を目指しています。知的財産部門は、これらの分野における研究開発を促進し、新たな知的財産の創出を支援していくことが期待されます。

グローバル化の進展に伴い、海外における知的財産権の取得・保護・活用もますます重要になっています。⁴ 知的財産部門は、海外の法律や制度に精通した人材を育成し、グローバルな知的財産戦略を展開していく必要があるでしょう。

他社からの学び

パナソニックは、エコソリューションやインフラ事業などでの技術革新と知財戦略を掲げ、無形資産の活用による持続可能な成長を目指している企業です。² 知財と合わせて、人的資本やブランド力への投資も戦略的に実施しており、統合報告書では、モビリティ社会の実現に向けた知財開放戦略も公表しています。² ソフトバンクグループも、パナソニックのように、知財戦略を事業戦略と統合し、持続的な成長を目指していくことが重要です。

結論

ソフトバンクグループの知的財産部門は、知的財産の保護と活用を通じて、同社の成長戦略に大きく貢献しています。研究開発の促進、新規事業の創出、M&A、ブランド価値向上、収益化など、様々な分野でその実績を挙げています。

今後、ソフトバンクグループが持続的な成長を遂げていくためには、知的財産部門が以下の役割を担うことが重要になります。

- AI、IoT、ロボットといった成長分野における研究開発を促進し、新たな知的財産の創出を支援すること
- グローバル化に対応した知的財産戦略を展開し、海外における知的財産権の取得・保護・活用を強化すること
- 他社の成功事例を参考に、知財戦略を進化させ続けること

ソフトバンクグループの知的財産部門は、これらの課題に取り組むことで、同社のさらなる成長と発展に貢献していくことが期待されます。

引用文献

1. 【2025】 大学入学共通テスト本番、頑張る受験生を応援！ 5夜連続 東進講師陣からの直前激励メッセージ公開 | ナガセのプレスリリース, 1月 11, 2025 にアクセス、
<https://kyodonewsprwire.jp/release/202501102738>
2. 統合報告書における「知財・無形資産の投資・活用戦略の構築・開示・発信」の優れた日本企, 1月 11, 2025 にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/9e76eef020bf6ab5cf1b.pdf>
3. 知的財産・ブランドの保護 | 企業・IR - ソフトバンク, 1月 11, 2025 にアクセス、
<https://www.softbank.jp/corp/aboutus/governance/intellectual-property/>
4. 経営における 知的財産戦略事例集 - 特許庁, 1月 11, 2025 にアクセス、
https://www.jpo.go.jp/support/example/document/keiei_senryaku_2019/keiei_chizaisenryaku.pdf
5. 現場の課題が独自の発明につながる。ソフトバンクが目指す攻めの知財, 1月 11, 2025 にアクセス、
https://www.softbank.jp/sbnews/entry/20240311_01
6. ソフトバンクグループ株式会社の特許登録一覧 2024 年 - IP Force, 1月 11, 2025 にアクセス、
<https://ipforce.jp/applicant-150698/2024>
7. ソフトバンクグループ株式会社の特許出願公開一覧 - IP Force, 1月 11, 2025 にアクセス、
<https://ipforce.jp/applicant-150698/publication>
8. ソフトバンクグループ株式会社の特許登録一覧 - IP Force, 1月 11, 2025 にアクセス、
<https://ipforce.jp/applicant-150698>